

2023・1

# 柏の景気情報

令和5（2023）年1月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

# 柏の景気情報 (令和5年1月の調査結果のポイント)

## ★調査結果のまとめ

回答期間: 令和5年1月24日～令和5年2月2日 調査対象: 柏市内150事業所及び組合にヒアリング、回答数104

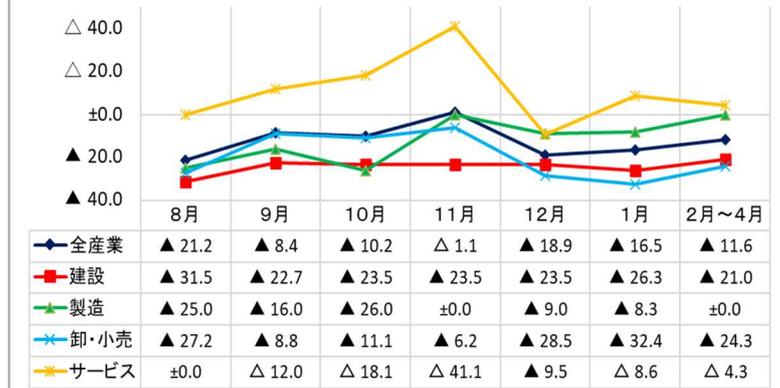
### 全産業DIはやや改善。先行きは改善を見込むが、電気代等のコスト増、世界経済情勢の不安定感への懸念は強い

1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.5(前月水準▲18.9)となり、マイナス幅が2.4ポイント縮小した。

製造業では受注の好調やコロナの影響減少などで業況が改善、また、サービス業からはDX・サイバーセキュリティ支援の好調についてコメントがあった。また、年始セールが好調だった百貨店の業況が改善した。一方、業種全体を通して原材料、電気代、人件費等、コストの増加は続いており、価格転嫁が間に合っておらず利益圧迫の声は大きい。

先行きDIは▲11.6と改善を見込むが、高騰の続く電気代等の負担増、世界経済情勢の不安定等に対する懸念は強い。

柏の景気情報・産業別業況DI



## ★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「コロナが2類から5類に変わればコロナ以前の生活に戻れるので、大きく好転すると思う」(塗装工事)、「物価高で可処分所得が減っているからか、一般顧客からの畳受注が激減。この時期に畳工事代金を上げるのは心苦しいが、1月から値上げ敢行」(畳)、「ここ数年仕入先の請求書に単価の値上げ案内が毎回同封されている。1年間の間に2～3回の値上げに何も抵抗できずに従う状態だが、当社から取引先には反映する事ができない」(とび)



製造業

「売上は好転しているが、資材や光熱費の高騰が厳しい」(酒類)、「受注は比較的好調。エネルギー等含む資材高騰に加え、電子部品の納期問題が続き、装置完成に多くの期間、資金、労力を必要としている」(機械・部品)、「物価高による販売価格の改定が完了していない。大手企業のような賃上げ、ベースアップは難しい。」(化学工業)、「今年に入り売上も利益も予算数値を下回り、厳しい状況が続くそう。特に、電力・ガスの高騰が収益を圧迫。コロナの影響は軽微になり、作業がまわるようになってきた」(鉄鋼業)、「太陽光パネルを発注しているが部材遅れで設置が未定。高騰する電気代やSDGs対応として期待している」(金属製品)、「経費の高騰が厳しさを増し、不透明感が増大。カーボンニュートラル、SDGs等の社会課題まで手が回らない」(金属素形材製品)、「景況がこの数か月非常に悪い。物価高による消費の冷え込みが効いている」(自動車付属品)



卸・小売業

「燃料高、人件費の値上がりが仕入価格にも影響を及ぼし、利幅減少」(花・植木小売)、「年末年始商戦ではカニなど例年より価格が高騰した商品は苦戦。帰省土産はよかった」(大型小売店)、「セール需要も高まり、年末から継続して被服・雑貨は2ケタ伸長。一方、生活防衛意識が影響し食物販鈍化傾向」(百貨店)、「主原料である卵の品不足が過去にないほど深刻」(洋菓子店)、「販売も仕入も段階を踏んで高騰しており、買いためと買い控えが繰り返されている」(各種商品小売)、「昨年11～12月は好況が続いたが、1月は一転して客単価、売上ともに悪化。例年1～2月は売伸びないが、今年は昨年よりも冷え込んでいる。顧客の購買行動にも積極性が見られず、ますます消費が冷え込まないか危惧している」(ペット用品小売)、「例年通り年末は客足、売上ともに好調で、年明けは例年通り客足が伸び悩んでいる。景気後退や原材料高騰ニュースの影響を受けやすく、今後の客単価減少を懸念。青果小売は価格転嫁が難しいものの、タイミングを見て値上げを検討せざるを得ない状況」(野菜・果実小売)、「世界的に金利が上昇し、世界経済全体が悪くなっている気がする」(産業機械器具卸売)



サービス業

「新学年度にタイミングで昨今の教材の仕入上昇や、光熱費高騰、人件費上昇を説明し、教材費や設備費を値上げせざるを得ない」(学習塾)、「物価上昇が続く中、運送費の底上げができず収益悪化。運送費のテコ入れをしないと業界がどんどん疲弊する」(一般貨物自動車運送)、「DX、サイバーセキュリティが専門のためマーケットは好況。同分野の人材は常に不足」(経営コンサルタント)、「電気代が3年前の同月比で2倍強。灯油代も高騰、仕入単価も1.6倍、給与は3%アップとなり、今後採算の大幅悪化が想定される」(ゴルフ練習場)

## ★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲16.5に対し、「CCI-LOBO」が▲18.4で、柏の方がマイナス幅が1.9ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸・小売業であり、サービス業は10ポイント以上悪い。

# 今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

| 景気天気図         |              |              |              |              |              |
|---------------|---|---|---|---|---|
|               | 特に好調<br>DI ≥ 50   | 好調<br>50 > DI ≥ 25  | まあまあ<br>25 > DI ≥ 0   | 不振<br>0 > DI ≥ ▲25  | 極めて不振<br>▲25 > DI   |
| <b>業況DI</b>   | 全産業   | 建設  | 製造  | 卸小売   | サービス  |
| 柏の景気          | <br>▲ 16.5   | <br>▲ 26.3   | <br>▲ 8.3    | <br>▲ 32.4   | <br>8.6      |
| CCI-LOBO      | <br>▲ 18.4   | <br>▲ 25.1   | <br>▲ 16.9   | <br>▲ 27.1   | <br>▲ 8.8    |
| <b>売上DI</b>   | 全産業   | 建設  | 製造  | 卸小売   | サービス  |
| 柏の景気          | <br>▲ 5.8    | <br>▲ 36.8   | <br>▲ 4.1    | <br>▲ 8.1    | <br>21.7     |
| CCI-LOBO      | <br>▲ 2.6    | <br>▲ 17.1   | <br>4.2      | <br>▲ 12.8   | <br>7.8      |
| <b>採算DI</b>   | 全産業   | 建設  | 製造  | 卸小売   | サービス  |
| 柏の景気          | <br>▲ 16.5  | <br>▲ 31.5  | <br>▲ 25.0  | <br>▲ 21.6  | <br>13.0    |
| CCI-LOBO      | <br>▲ 23.7 | <br>▲ 29.9 | <br>▲ 25.0 | <br>▲ 28.5 | <br>▲ 14.7 |
| <b>仕入単価DI</b> | 全産業   | 建設  | 製造  | 卸小売   | サービス  |
| 柏の景気          | <br>▲ 66.0 | <br>▲ 68.4 | <br>▲ 79.1 | <br>▲ 72.9 | <br>▲ 39.1 |
| CCI-LOBO      | <br>▲ 74.5 | <br>▲ 81.4 | <br>▲ 81.3 | <br>▲ 73.7 | <br>▲ 67.3 |
| <b>従業員DI</b>  | 全産業   | 建設  | 製造  | 卸小売   | サービス  |
| 柏の景気          | <br>15.5   | <br>10.5   | <br>20.8   | <br>10.8   | <br>21.7   |
| CCI-LOBO      | <br>19.2   | <br>30.2   | <br>11.7   | <br>15.7   | <br>25.2   |
| <b>資金繰りDI</b> | 全産業   | 建設  | 製造  | 卸小売   | サービス  |
| 柏の景気          | <br>▲ 15.5 | <br>▲ 31.5 | <br>▲ 20.8 | <br>▲ 16.2 | <br>4.3    |
| CCI-LOBO      | <br>▲ 15.9 | <br>▲ 7.8  | <br>▲ 17.7 | <br>▲ 24.2 | <br>▲ 13.5 |

# CC I - L O B O

## 商工会議所早期景気観測(1月速報)

調査期間：2023年1月16日～20日

調査対象：全国の329商工会議所が2,522企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、経済活動は回復も、コスト増で横ばい。先行きは、国内外の需要減退懸念から厳しい見方

1月の全産業合計の業況DIは、▲18.4と、前月と変わらなかった。建設業では、設備投資や住宅関連の民間工事が堅調に推移し、業況が改善した。また、小売業では、初売りが好調だった百貨店を中心に、業況が改善した。一方、サービス業では、年始の感染拡大で、新年会のキャンセルが発生した飲食店が全体を押し下げ、業況が悪化した。また、製造業や卸売業では、外需減退により受注数が減少した電子部品関連を中心に業況が悪化した。経済活動が正常化に向かう一方、原材料・エネルギー価格の高騰、人手不足に伴う人件費等、負担するコストは増加が続いている。コスト増に見合う価格転嫁も十分に行えておらず、中小企業の業況は、横ばいに留まった。

先行きについては、先行き見通しDIが▲19.8（今月比▲1.4ポイント）と悪化を見込む。経済活動の回復により、設備投資等の受注増への期待感が建設業や卸売業でうかがえる。一方、業種を問わず、人手不足による受注機会の損失や、高騰が続く電気代等によるコスト負担増を危惧する声が聞かれた。不安定な為替動向等で企業経営が安定しない中、物価高による消費マインドの低下や、欧米等の世界経済の鈍化による外需のさらなる減退も懸念され、中小企業の先行きは厳しい見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、製造卸売業、サービス業で悪化、その他の業種で改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「民間の建設工事は受注数が増加傾向にあり、経済活動の回復が見受け

られる。一方、土木工事等の公共工事は減少傾向が続いており、引き続き先行きは不安定な状態が続いている。資材価格の高騰で、価格競争も激しくなっているため、採算も悪くなっている」（一般工事業、「受注数が伸びている一方、専門的な技術者が不足しており、工期遅れが発生。その間に資材価格が値上がりするため、利益確保が難しい」（建設工事業）

【製造業】「原材料価格の高騰に伴い、顧客に対して販売価格の値上げ交渉を行い、転嫁を実施することができた。一方で、消費マインドの低下で受注数は減少している。今後、再び原材料の値上げが発生した際に、販売価格も同様に上げることができると懸念している」（調味料製造業、「電気代の高騰が著しく、省エネ化に向けた設備投資を行ったが、コストの削減が追い付いておらず、収益を圧迫している」（金物類製造業）

【卸売業】「人の動きは活発になっているが、物価高により消費者が買い控えに動いており、取引先の小売店からの引き合いが減少傾向。加えて、

輸送費等のコストは上昇が続いており、売上が落ちている中でコストが上がり、利益が確保できない」（衣類・日用品卸売業、「仕入価格の上昇分は、販売価格に転嫁できている。一方で、エネルギー価格や人件費も増加しているため、利益率は悪化している」（鉱物金属材料卸売業）

【小売業】「3年ぶりの行動制限のない年始で客数が改善し、売上も初売りが好調で改善となった。小売ではあるが、インバウンドの回復による外国人観光客による免税品や高付加価値商品の需要も回復基調にあり、今後の売上改善に期待している」（百貨店、「物価の上昇により、消費者の購買意欲が低下している。生活必需品を最低限購入するだけとなっており、経営改善が見込まれない」（服飾品小売業）

【サービス業】「生産性向上に向けた企業のIT化により、売上は好調を維持している。一方で、人手不足が続いており、人件費の増加で開発にかかるコストは増加が続いている。今後も受注数の増加が見込まれ

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

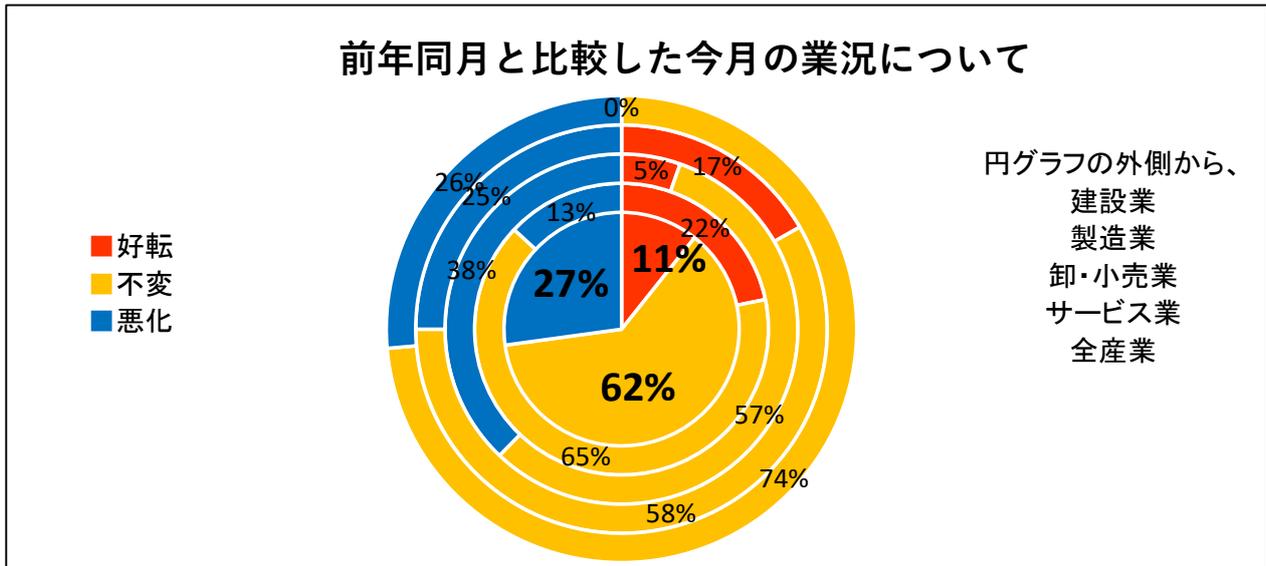
|     | 全産業   | 建設    | 製造    | 卸売    | 小売    | サービス  |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 8月  | ▲21.0 | ▲26.4 | ▲18.9 | ▲24.8 | ▲30.7 | ▲10.2 |
| 9月  | ▲23.3 | ▲28.7 | ▲23.3 | ▲27.2 | ▲31.9 | ▲11.4 |
| 10月 | ▲20.7 | ▲29.9 | ▲20.1 | ▲21.1 | ▲29.4 | ▲8.1  |
| 11月 | ▲16.4 | ▲22.9 | ▲16.2 | ▲20.3 | ▲23.9 | ▲4.5  |
| 12月 | ▲18.4 | ▲27.2 | ▲14.2 | ▲16.3 | ▲32.1 | ▲7.0  |
| 1月  | ▲18.4 | ▲25.1 | ▲16.9 | ▲17.3 | ▲27.1 | ▲8.8  |
| 見通し | ▲19.8 | ▲20.7 | ▲17.3 | ▲15.6 | ▲30.9 | ▲14.7 |

ており、対応に向けた人材採用を積極的に行っていきたい」（ソフトウェア業、「電気代の高騰が続く中で、新年会の予約キャンセルが相次ぎ、売上・採算ともに悪化が継続し、厳しい状況が続いている」（飲食店）

# 令和5年（2023年）1月の動向

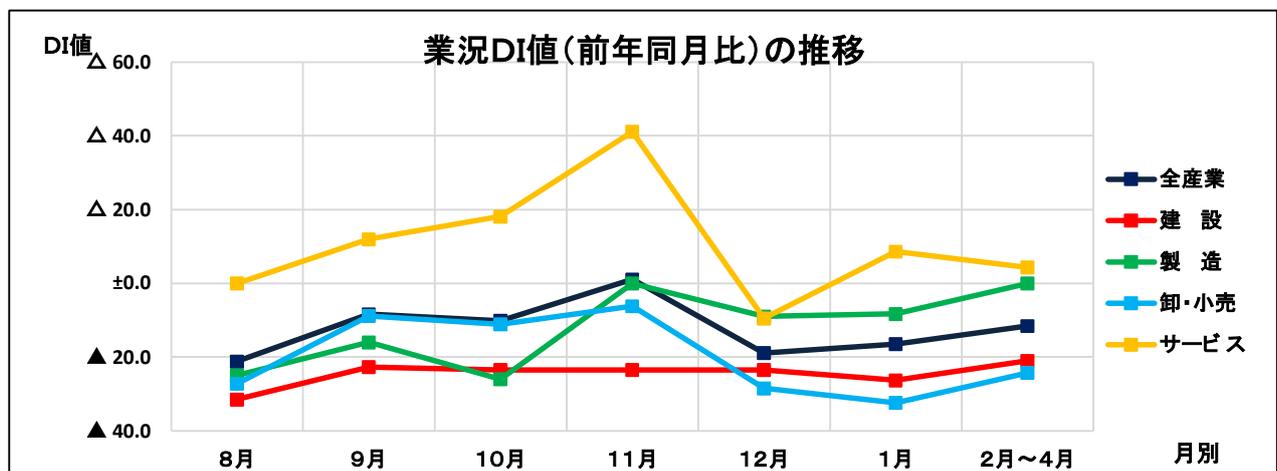
## 【業況について】

- 1月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲16.5（前月水準▲18.9）となり、マイナス幅が2.4ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（2月から4月）の先行き見通しについては、全産業では、▲11.6（前月水準▲22.1）となり、マイナス幅が10.5ポイント縮小する見通しである。



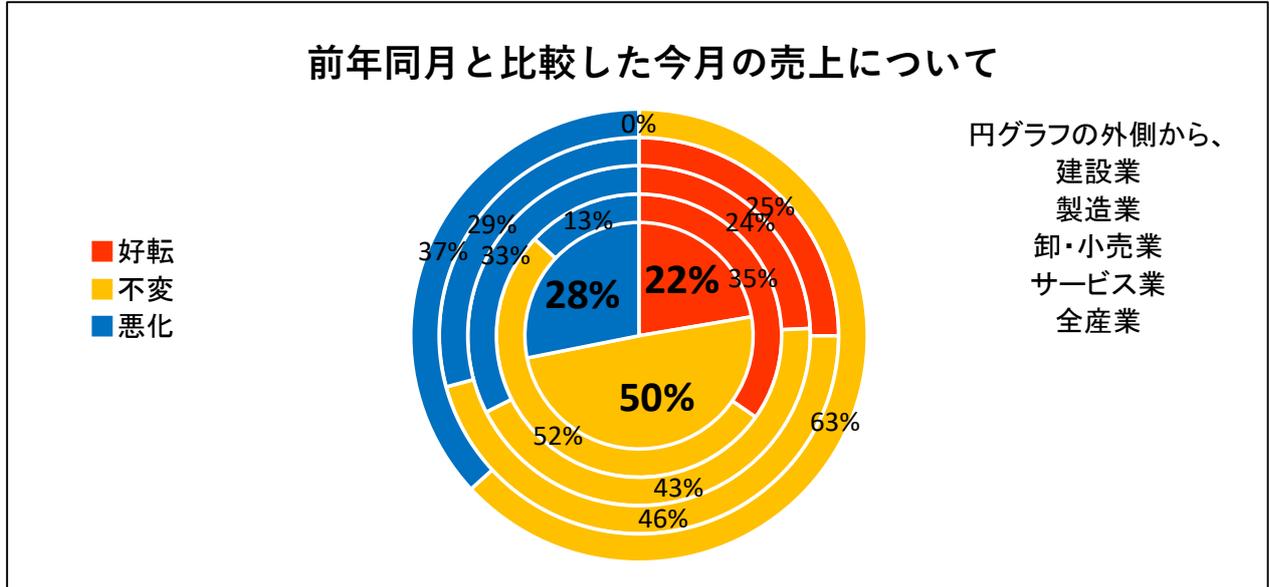
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

|      | 令和4年  |       |       |       |       | 令和5年  | 先行き見通し       |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|
|      | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月~4月（1月~3月） |
| 全産業  | ▲21.2 | ▲8.4  | ▲10.2 | △1.1  | ▲18.9 | ▲16.5 | ▲11.6（▲22.1） |
| 建設   | ▲31.5 | ▲22.7 | ▲23.5 | ▲23.5 | ▲23.5 | ▲26.3 | ▲21.0（▲35.2） |
| 製造   | ▲25.0 | ▲16.0 | ▲26.0 | ±0.0  | ▲9.0  | ▲8.3  | ±0.0（△9.0）   |
| 卸・小売 | ▲27.2 | ▲8.8  | ▲11.1 | ▲6.2  | ▲28.5 | ▲32.4 | ▲24.3（▲37.1） |
| サービス | ±0.0  | △12.0 | △18.1 | △41.1 | ▲9.5  | △8.6  | △4.3（▲19.0）  |



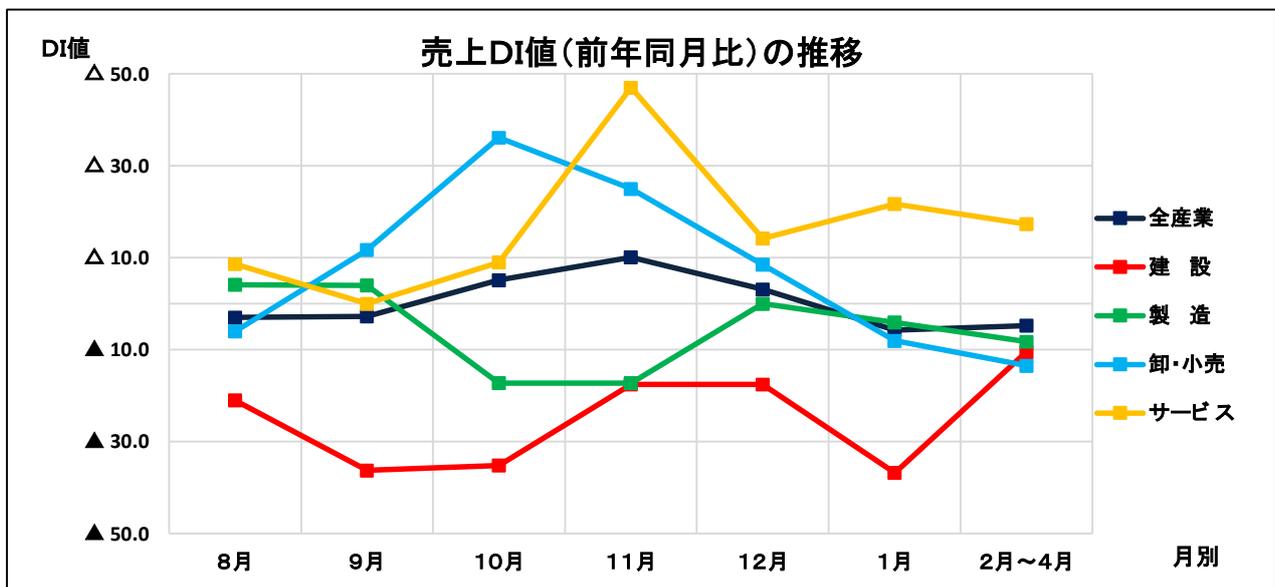
【売上について】

- 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5.8(前月水準△3.1)となり、プラス幅が8.9ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4.8(前月水準▲8.4)となり、マイナス幅が3.6ポイント縮小する見通しである。



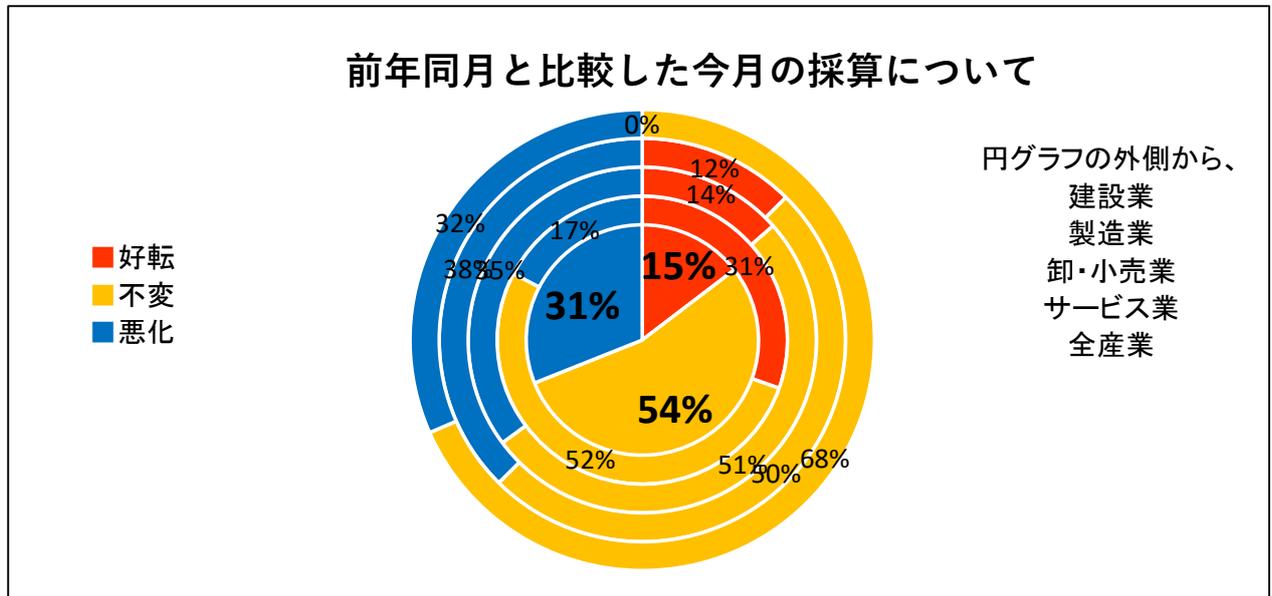
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

|      | 令和4年  |       |       |       |       | 令和5年  | 先行き見通し       |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|
|      | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月~4月(1月~3月) |
| 全産業  | ▲3.0  | ▲2.8  | △5.1  | △10.1 | △3.1  | ▲5.8  | ▲4.8(▲8.4)   |
| 建設   | ▲21.0 | ▲36.3 | ▲35.2 | ▲17.6 | ▲17.6 | ▲36.8 | ▲10.5(▲29.4) |
| 製造   | △4.1  | △4.0  | ▲17.3 | ▲17.3 | ±0.0  | ▲4.1  | ▲8.3(△13.6)  |
| 卸・小売 | ▲6.0  | △11.7 | △36.1 | △25.0 | △8.5  | ▲8.1  | ▲13.5(▲22.8) |
| サービス | △8.6  | ±0.0  | △9.0  | △47.0 | △14.2 | △21.7 | △17.3(△9.5)  |



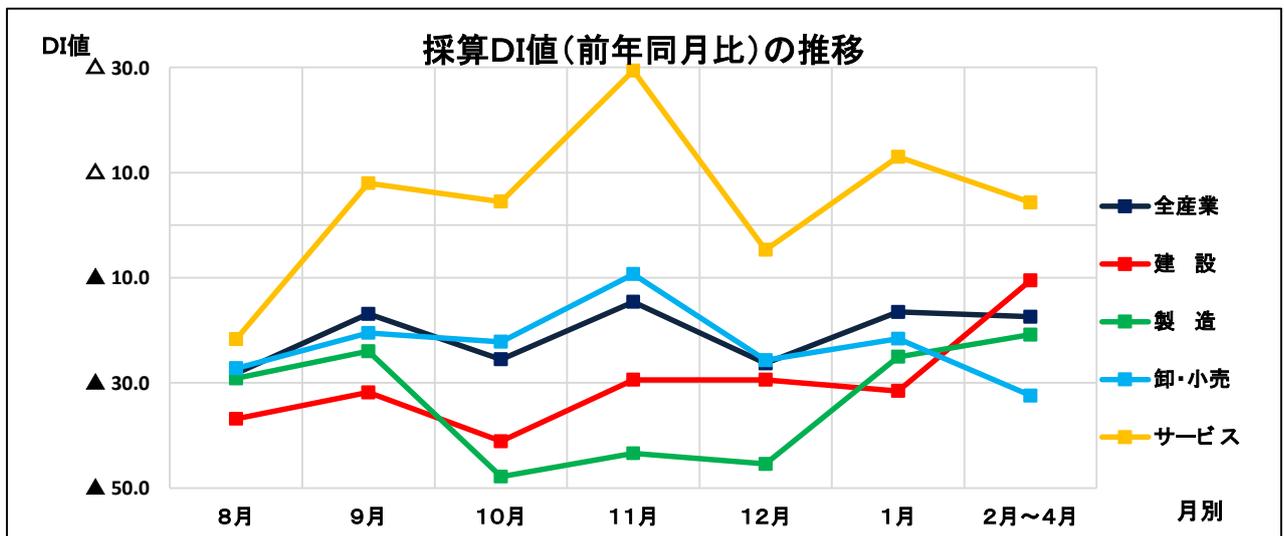
【採算について】

- 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.5(前月水準▲26.3)となり、マイナス幅が9.8ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.4(前月水準▲23.1)であり、マイナス幅が5.7ポイント縮小する見通しである。



採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

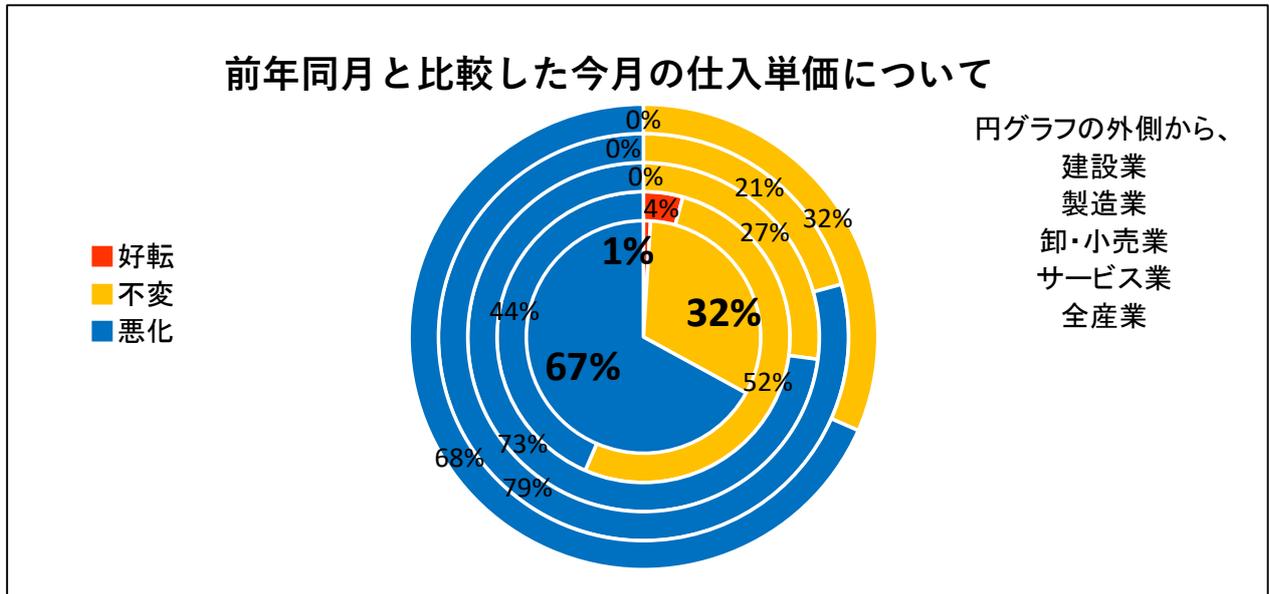
|      | 令和4年  |       |       |       |       | 令和5年  | 先行き見通し       |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|
|      | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月~4月(1月~3月) |
| 全産業  | ▲28.2 | ▲16.9 | ▲25.5 | ▲14.6 | ▲26.3 | ▲16.5 | ▲17.4(▲23.1) |
| 建設   | ▲36.8 | ▲31.8 | ▲41.1 | ▲29.4 | ▲29.4 | ▲31.5 | ▲10.5(▲41.1) |
| 製造   | ▲29.1 | ▲24.0 | ▲47.8 | ▲43.4 | ▲45.4 | ▲25.0 | ▲20.8(±0.0)  |
| 卸・小売 | ▲27.2 | ▲20.5 | ▲22.2 | ▲9.3  | ▲25.7 | ▲21.6 | ▲32.4(▲42.8) |
| サービス | ▲21.7 | △8.0  | △4.5  | △29.4 | ▲4.7  | △13.0 | △4.3(±0.0)   |



【仕入単価について】

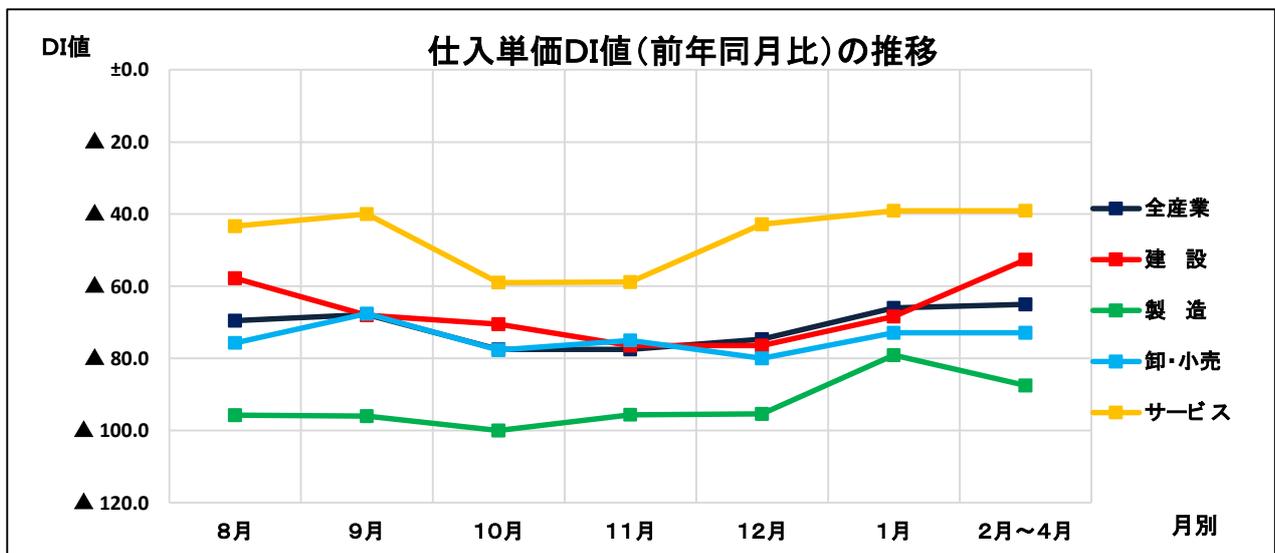
○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲66.0(前月水準▲74.7)となり、マイナス幅が8.7ポイント縮小した。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲65.0(前月水準▲60.0)となり、マイナス幅が5.0ポイント拡大する見通しである。



仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

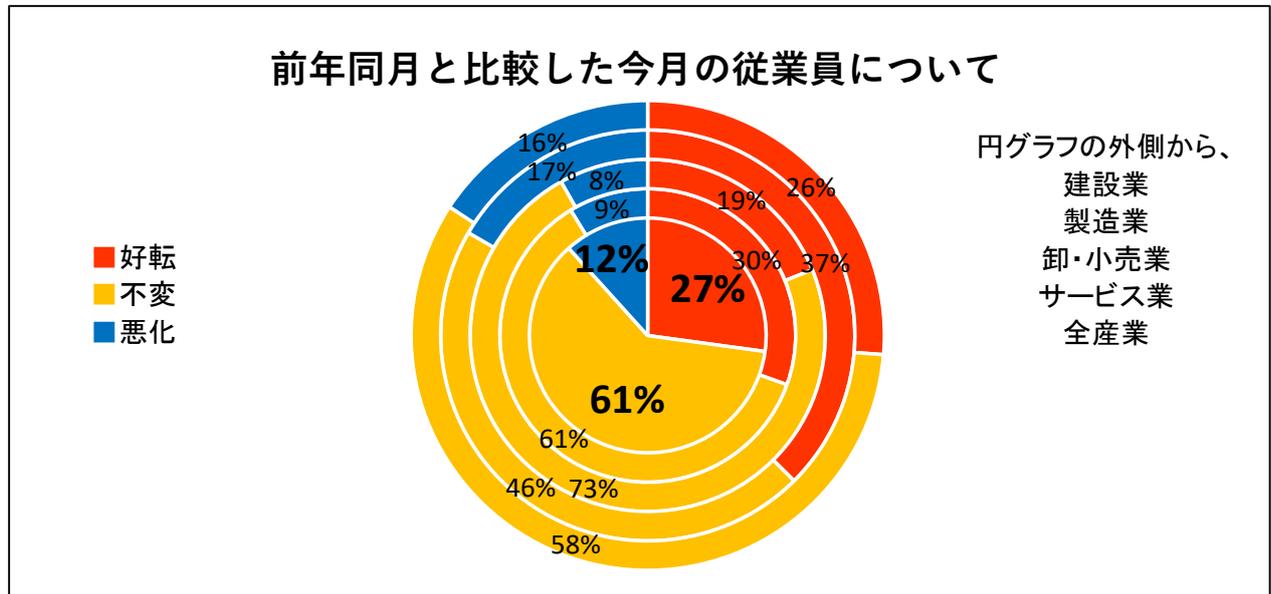
|      | 令和4年  |       |        |       |       | 令和5年  | 先行き見通し       |
|------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--------------|
|      | 8月    | 9月    | 10月    | 11月   | 12月   | 1月    | 2月~4月(1月~3月) |
| 全産業  | ▲69.6 | ▲67.9 | ▲77.5  | ▲77.5 | ▲74.7 | ▲66.0 | ▲65.0(▲60.0) |
| 建設   | ▲57.8 | ▲68.1 | ▲70.5  | ▲76.4 | ▲76.4 | ▲68.4 | ▲52.6(▲52.9) |
| 製造   | ▲95.8 | ▲96.0 | ▲100.0 | ▲95.6 | ▲95.4 | ▲79.1 | ▲87.5(▲81.8) |
| 卸・小売 | ▲75.7 | ▲67.6 | ▲77.7  | ▲75.0 | ▲80.0 | ▲72.9 | ▲72.9(▲65.7) |
| サービス | ▲43.4 | ▲40.0 | ▲59.0  | ▲58.8 | ▲42.8 | ▲39.1 | ▲39.1(▲33.3) |



【従業員について】

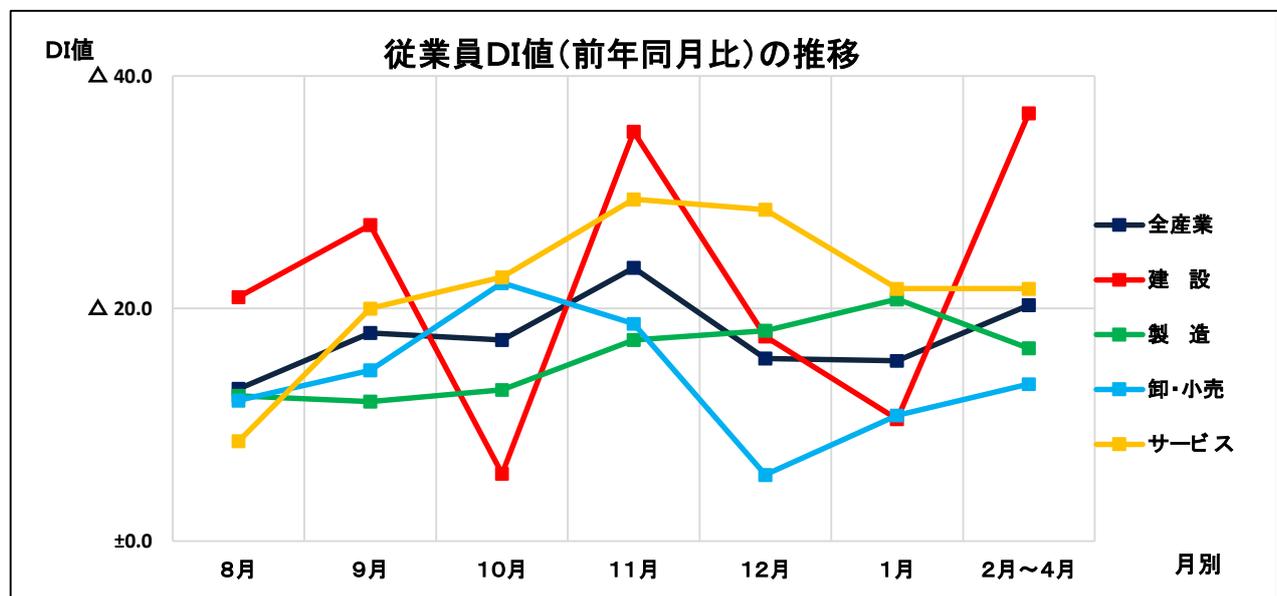
○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△15.5(前月水準△15.7)となり、プラス幅が0.2ポイント縮小した。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、△20.3(前月水準△17.8)となり、プラス幅が2.5ポイント拡大する見通しである。



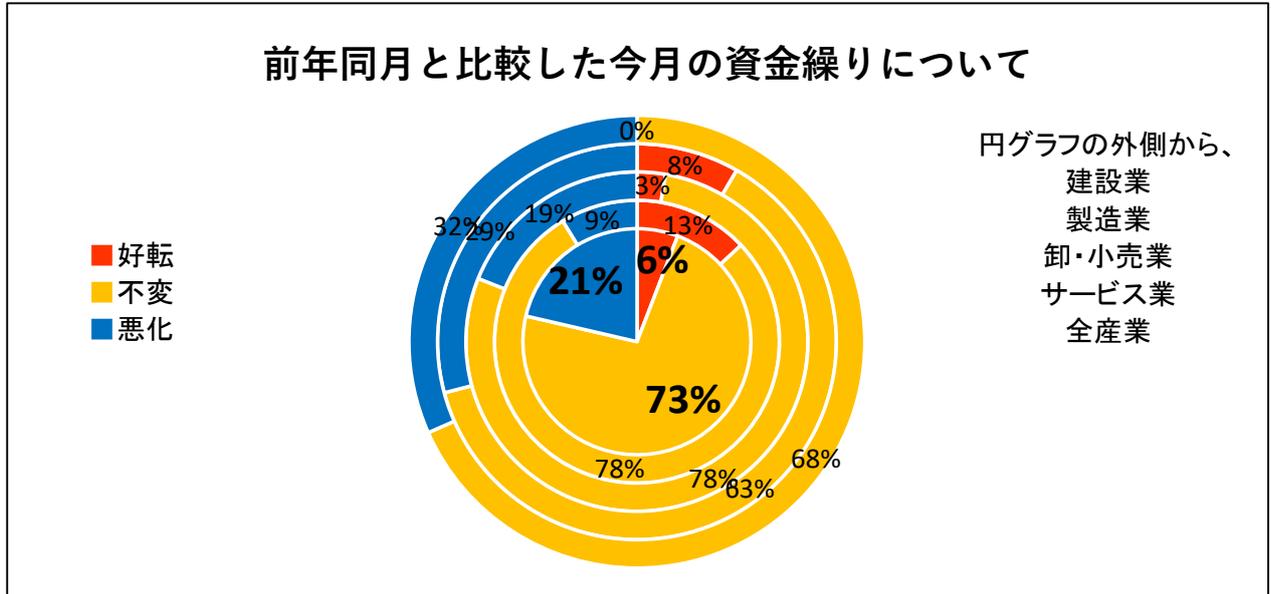
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

|      | 令和4年  |       |       |       |       | 令和5年  |              | 先行き見通し<br>2月~4月(1月~3月) |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|------------------------|
|      | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    |              |                        |
| 全産業  | △13.1 | △17.9 | △17.3 | △23.5 | △15.7 | △15.5 | △20.3(△17.8) |                        |
| 建設   | △21.0 | △27.2 | △5.8  | △35.2 | △17.6 | △10.5 | △36.8(△17.6) |                        |
| 製造   | △12.5 | △12.0 | △13.0 | △17.3 | △18.1 | △20.8 | △16.6(△18.1) |                        |
| 卸・小売 | △12.1 | △14.7 | △22.2 | △18.7 | △5.7  | △10.8 | △13.5(△8.5)  |                        |
| サービス | △8.6  | △20.0 | △22.7 | △29.4 | △28.5 | △21.7 | △21.7(△33.3) |                        |



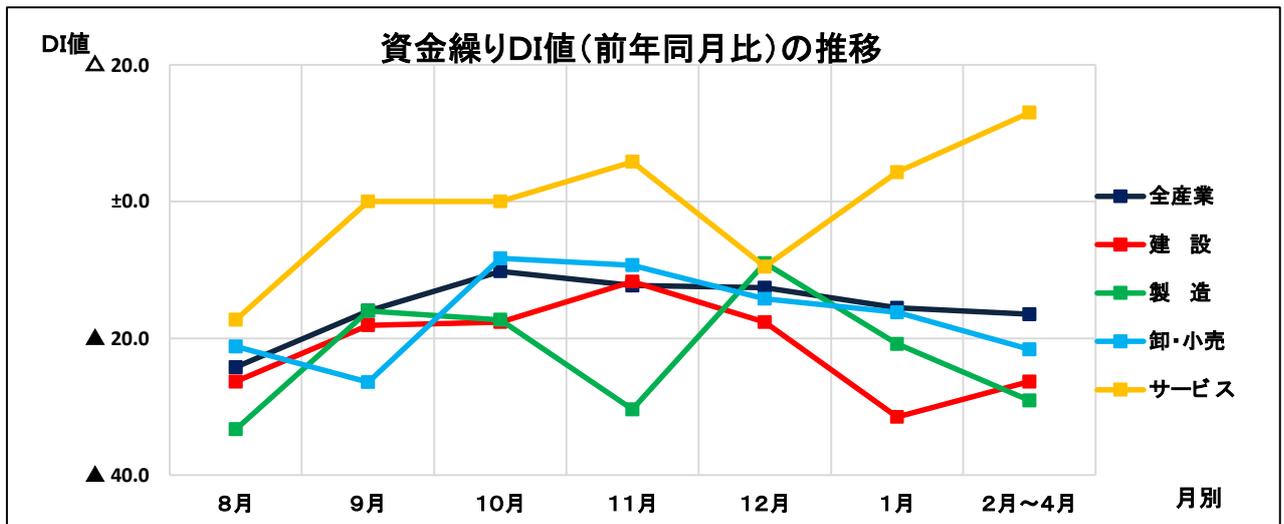
【資金繰りについて】

- 1月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.5(前月水準▲12.6)となり、マイナス幅が2.9ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.5(前月水準▲21.0)となり、マイナス幅が4.5ポイント縮小する見通しである。



資金繰りD I値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

|      | 令和4年  |       |       |       |       | 令和5年  | 先行き見通し       |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|
|      | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月~4月(1月~3月) |
| 全産業  | ▲24.2 | ▲16.0 | ▲10.2 | ▲12.3 | ▲12.6 | ▲15.5 | ▲16.5(▲21.0) |
| 建設   | ▲26.3 | ▲18.1 | ▲17.6 | ▲11.7 | ▲17.6 | ▲31.5 | ▲26.3(▲29.4) |
| 製造   | ▲33.3 | ▲16.0 | ▲17.3 | ▲30.4 | ▲9.0  | ▲20.8 | ▲29.1(▲22.7) |
| 卸・小売 | ▲21.2 | ▲26.4 | ▲8.3  | ▲9.3  | ▲14.2 | ▲16.2 | ▲21.6(▲25.7) |
| サービス | ▲17.3 | ±0.0  | ±0.0  | △5.8  | ▲9.5  | △4.3  | △13.0(▲4.7)  |

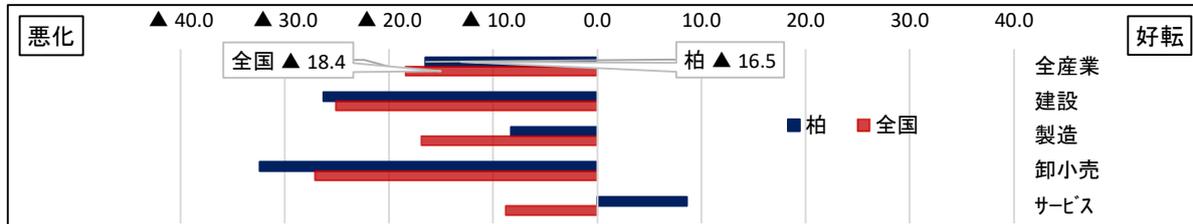


# 全国（CCI-LOBO）との比較

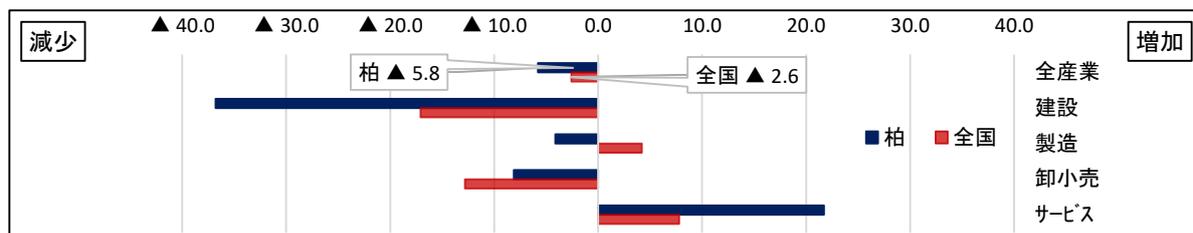
## 【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

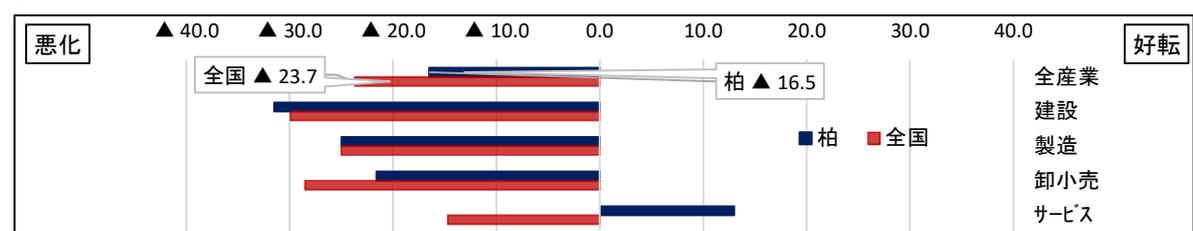
### 【業況D I】



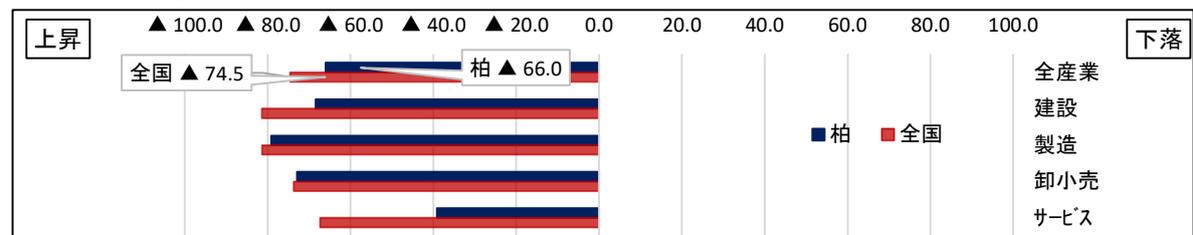
### 【売上D I】



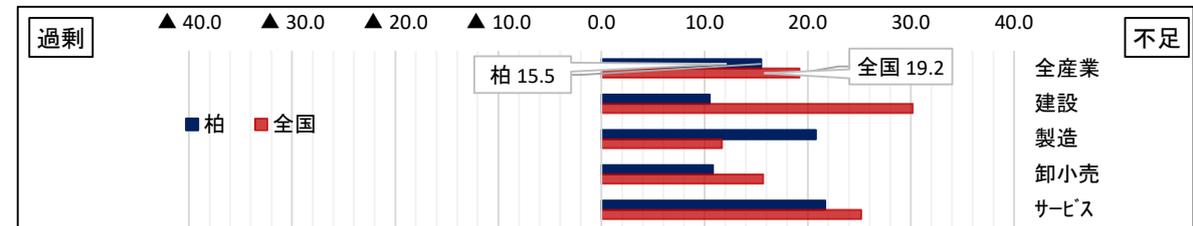
### 【採算D I】



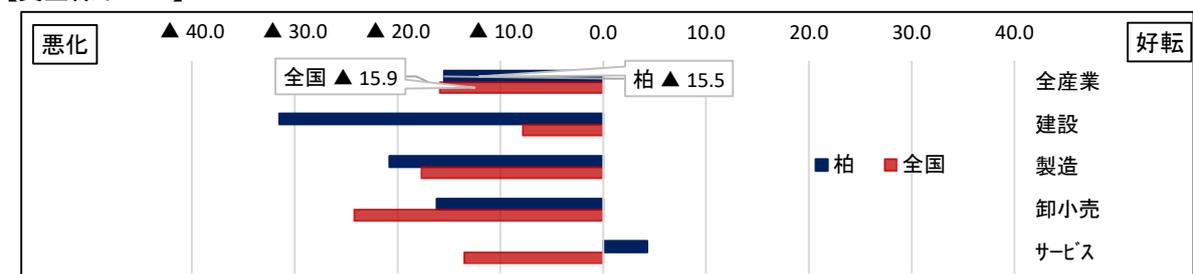
### 【仕入単価D I】



### 【従業員D I】



### 【資金繰りD I】



## 【業種別】業界内トピックス

| 業種別                                       | 概 況   | 業 種          |
|---|---|--------------|
| 建設業                                       | コロナが2類から5類に変わればコロナ以前の生活に戻れるので、大きく好転すると思います。   | 塗装工事業        |
|   | 物価高で可処分所得が減っているからか、一般顧客からの畳受注が激減。この時期に畳工事代金を上げるのは心苦しいが、1月から値上げ敢行。                                   | 畳工事請負・畳製造販売業 |
|   | ここ数年仕入さきからの請求書に、単価値上がり案内が毎回同封されている。1年間の間に2~3回の値上がり案内に、当社からは何も抵抗できずに従う状態だが、当社から取引先への請求書には反映する事が出来ない。 | とび           |
| 製造業                                       | コロナ禍、半導体不足、物価の高騰など依然として様々な負の影響を受け、未だ業績の回復が見込めない状況が継続している。   | 電子応用装置製造業    |
|   | 新型コロナの影響で低迷したままの化粧品容器の受注に回復傾向は見られないが、医療品容器の受注は新企画案件は底入れはしたようで今後の展開に期待している                           | プラスチック加工     |
|   | 売上については好転していっているが、資材やユーティリティ費用の高騰が厳しい。  | 酒類製造業        |
|   | 受注は比較的好調であるが、エネルギー等含む資材の高騰に加え、電子部品の納期問題が続いており装置を完成させるのに多くの期間、資金、労力を必要としている。                         | 機械・同部品製造業    |
|   | 物価高による販売価格の改定がまだ完了していない。大手企業のような賃上げ、ベースアップは、なかなか難しい。  | 化学工業         |
|   | 今年に入ってから売上も利益も予算数値を下回り、当分厳しい状況が続くそう。特に、電力・ガスの高騰が収益を圧迫している。社内でのコロナの影響は軽微になり、作業がまわるようになってきた。          | 鉄鋼業          |
|   | 太陽光パネルを発注しているが部材の遅れで設置が未定である。高騰する電気代やSDGs対応として期待している。   | 金属製品         |
|   | 原材料、電力費、仕入等、経費の高騰が利益を圧迫。厳しさを増し、不透明感が増大している。よって、カーボンニュートラル、SDGs等の社会課題に手が回らない現状である。                   | 金属素形材製品製造業   |
|   | 新型コロナウイルス、ロシア・ウクライナ情勢、円安と様々な要因があると思われるが、景況がこの数か月非常に悪い。物価高による消費の冷え込みが、かなり効いているように思われる。               | 自動車付属品製造業    |
| 印刷業界が伸び悩む中、オリジナルデザインの提案に新規顧客を増やしたいところである。 | 印刷業   |              |
|   | 燃料高、人件費の値上がり、仕入れの価格にも影響を及ぼす結果となり、利幅が少なくなって来ております。   | 花・植木小売業      |
|   | インボイス制度については、本部にて対応を実施しているため回答はしておりません。年末年始商戦ではカニなど例年に比べて価格が高騰した商品は苦戦。人の移動が活発になり帰省土産などは動向がよかった。     | 大型小売店        |
|   | 主原料である卵の品不足が、過去にないほど深刻。   | 洋菓子店         |
|   | セール需要も高まり、年末商戦から継続して被服・雑貨は2ケタ伸長。一方更なる光熱費の値上げからの生活防衛意識も影響し、食物販鈍化傾向。                                  | 百貨店          |
|   | 原材料、光熱費の高騰に苦慮。特に電気代高騰がきつい。  | 洋菓子店         |
|   | 販売にしても仕入れにしても段階を踏んで高騰しているので、買いためと買い控えが繰り返されているように見える。   | 各種商品小売業      |

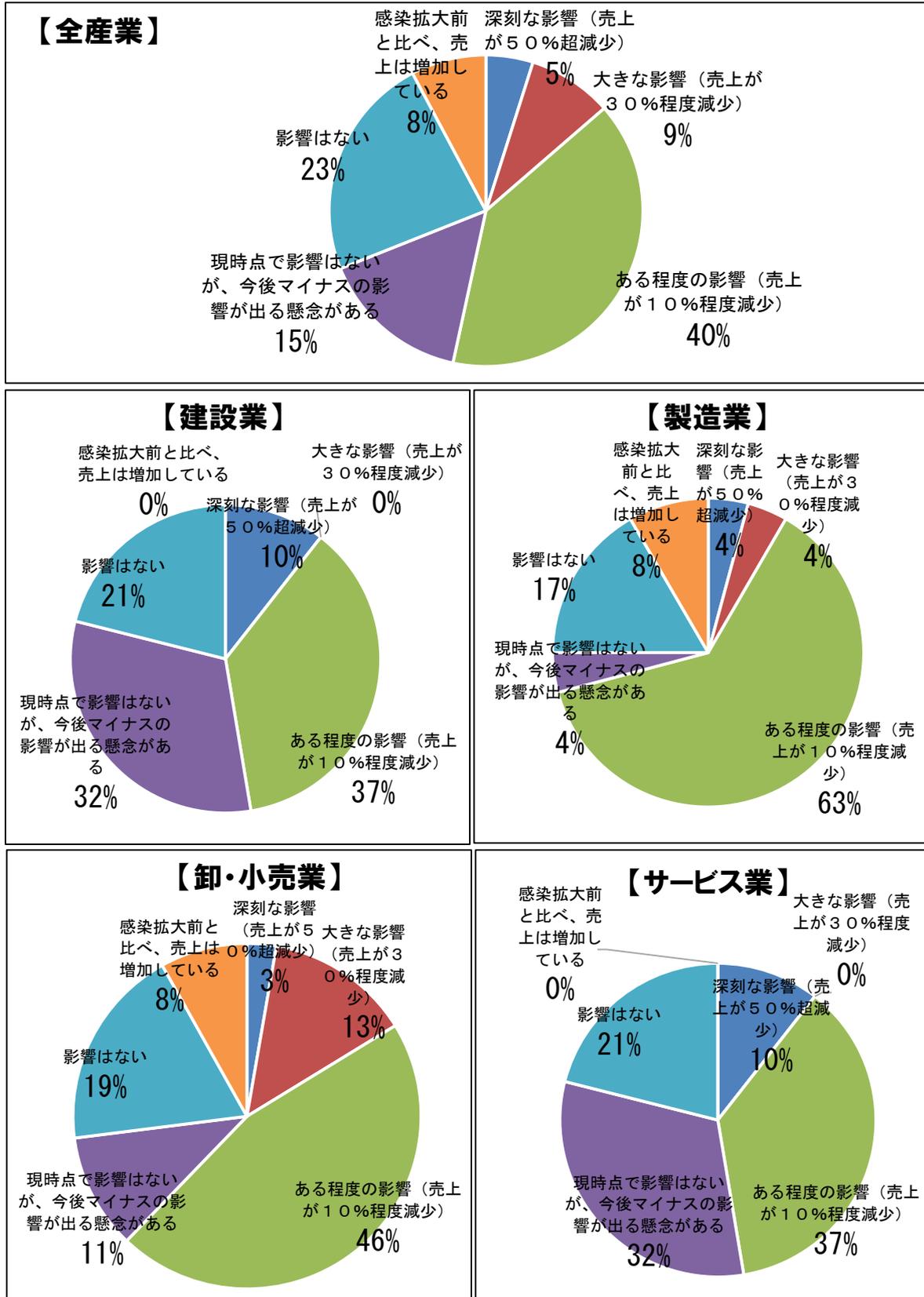
## 【業種別】業界内トピックス

|   |   |            |
|---|---|------------|
| 卸・小売業   | <p>コロナパンデミックやウクライナ侵攻以降、世界的なインフレーションが日本にも波及している。昨年までは業者がある程度被る形になっていたが、東京電力の大幅値上げからも判るように、いよいよ末端価格にまで波及しそうな気配である。現在個人の住宅ローンは変動金利が7割を超え、金利が上昇するならば物価高と相まって消費意欲は大幅に後退するであろう。先ずは不要不急の物品、そして中国産のような安い品物に群がる光景が目に見え、農産物、畜産で必要な飼料等の純国産化を模索する最後の機会になると個人的に思っています。それこそSDG'sの観点から見ても、大量の二酸化炭素を吐き出してまでも、海外から輸入する道理は無い。</p> | 自動車卸売業     |
|   | <p>昨年11、12月は好況が続いたが、1月に入ると一転して客単価、売上ともに悪化した。例年1、2月は売上が伸びない傾向があるが、今年は昨年よりも冷え込んでいる印象。顧客の購買行動にも積極性が見られないように感じる。今後の仕入れ価格値上げの連絡もいくつか来ていることもあり、ますます消費が冷え込まないか危惧している。</p>  | ペット用品小売業   |
|   | <p>例年、12月は年末商戦で青果の売れ行きは好調となる流れ通り、年末は客足、売上ともに好調だった。年明けは例年通り客足が伸び悩んでいるが、季節的な要因が第一と見ている。ただ、業態的に景気の後退と燃料費、原材料高騰のニュースなどの影響を受けやすく、今後客単価の減少への影響が懸念される。青果小売業は価格転嫁が難しいものの、タイミングを見て値上げを検討せざるを得ない状況である。</p>  | 野菜・果実小売業   |
|   | <p>世界的に金利が上昇しているため、世界経済全体が悪くなっている気がします。</p>   | 産業機械器具卸売業  |
|   | <p>前年がないので、比較の部分やよくわからないところは不変と回答しました。インボイスもなんとなくしか把握しておらず、これからやっていかなきゃという感じですが</p>   | 花・植木小売業    |
| サービス業   | <p>インボイス導入に係る知識が必要。セミナー開催を希望します。</p>  | ソフトウェア業    |
|   | <p>学習塾は3月から新学年度となり、このタイミングで教材費や設備費を上げざるを得ないが、保護者と面談をして、昨今の状況(教材の仕入れ値の上昇や、光熱費の高騰、人件費の上昇)を丁寧に説明してゆく必要があると考えている。</p>   | 学習塾        |
|   | <p>社内規則の作成を考えています。退職金制度を検討しています。</p>  | 不動産管理業     |
|   | <p>物価上昇が続く中、運送費の底上げができず、収益が悪化している。抜本的な運送費のテコ入れをしないと運送業界がどんどん疲弊していく。</p>   | 一般貨物自動車運送業 |
|   | <p>DX及びサイバーセキュリティを専門とする事業所としては、現在はマーケットも好況な状況です。同分野における人材が常に不足しております。</p>   | 経営コンサルタント業 |
| <p>電気代が3年前の同月比で2倍強になった。灯油代も高騰、仕入単価も1.6倍、給与は3%アップとなり今後採算が大幅に悪化すること想定される。</p> | ゴルフ練習場  |            |

附帯調査結果(1)

# 新型コロナウイルス感染症の影響について

○新型コロナウイルス感染拡大前と比べた、今月の売上について



## インボイス制度について

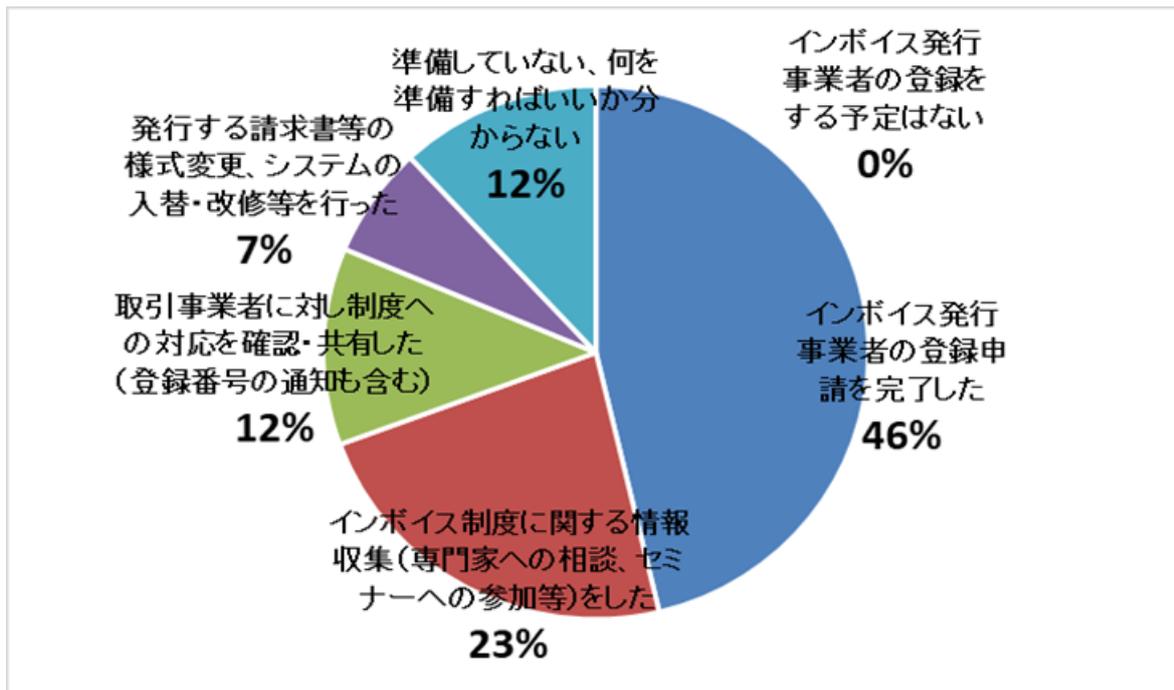
○インボイス制度を知っていますか

|       |       |
|-------|-------|
| 知っている | 94.9% |
| 知らない  | 5.1%  |

○インボイス制度の内容について

|            |       |
|------------|-------|
| 理解している     | 27.3% |
| おおよそ理解している | 56.6% |
| よく分からない    | 16.1% |

○インボイス制度導入に対する準備状況について



# 調査要領

回答期間

令和5年1月24日 ～ 令和5年2月2日

調査対象

柏市内150事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

| 調査産業 | 調査対象数 | 回答数 | 回収率   |
|------|-------|-----|-------|
| 全産業  | 150   | 104 | 69.3% |
| 建設   | 32    | 20  | 62.5% |
| 製造   | 35    | 24  | 68.6% |
| 卸・小売 | 48    | 37  | 77.1% |
| サービス | 35    | 23  | 65.7% |

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

| 質問事項              | 回答欄                |         |         |                         |         |         |
|-------------------|--------------------|---------|---------|-------------------------|---------|---------|
|                   | 前年同月と比較した<br>今月の水準 |         |         | 今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し |         |         |
|                   | 1<br>増加            | 2<br>不変 | 3<br>減少 | 1<br>増加                 | 2<br>不変 | 3<br>減少 |
| a.売上高（出荷高）        | 1<br>増加            | 2<br>不変 | 3<br>減少 | 1<br>増加                 | 2<br>不変 | 3<br>減少 |
| b.採算<br>（経常利益ベース） | 1<br>好転            | 2<br>不変 | 3<br>悪化 | 1<br>好転                 | 2<br>不変 | 3<br>悪化 |
| c.仕入単価            | 1<br>下落            | 2<br>不変 | 3<br>上昇 | 1<br>下落                 | 2<br>不変 | 3<br>上昇 |
| d.従業員             | 1<br>不足            | 2<br>適正 | 3<br>過剰 | 1<br>不足                 | 2<br>適正 | 3<br>過剰 |
| e.業況              | 1<br>好転            | 2<br>不変 | 3<br>悪化 | 1<br>好転                 | 2<br>不変 | 3<br>悪化 |
| f.資金繰り            | 1<br>好転            | 2<br>不変 | 3<br>悪化 | 1<br>好転                 | 2<br>不変 | 3<br>悪化 |

質問B 業界内のトピック（記述式）

## ※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

## ※DI値と景気の概況

| DI ≥ 50   | 50 > DI ≥ 25  | 25 > DI ≥ 0   | 0 > DI ≥ ▲25  | ▲25 > DI  |
|---|---|---|---|---|
| 特に好調  | 好調  | まあまあ  | 不振  | 極めて不振   |
|  |  |  |  |  |